

学内の分野横断的な活動の支援:「知の共創プログラム」

研究力の強化と多様な人材の輩出に繋がる「学内共同研究の仕組みづくりや研究力強化に向けた取り組み」を支援する取組。



本事業のポイント

大阪大学の特徴を活かし、将来、世界を先導する可能性がある研究グループや、若手研究者による将来的に発展が期待できる研究グループなどの部局横断的な立ち上げ活動を支援する取組。

支援対象経費は、研究プロジェクト拠点事務局経費(人件費含む)、国内外シンポジウム開催経費、会議費(学外者が参加する場合に限る)、旅費等を対象とし、実際の研究費は対象としない。



取り組み実績と得られた成果

●取り組み実績

- 211At-NaAt薬剤の甲状腺がんモデルマウスへの投与により腫瘍への高集積ならびに腫瘍退縮効果を初めて確認できた。
- インフルエンザの流行期を前に大阪大学医学部付属病院に設置した「真実の口」を模したアルコール消毒液が出る「仕掛け」を設置した。
- 「AタイプCpGオリゴデオキシヌクレオチド含有脂質粒子」の特許を申請した。

●得られた成果

- 多くのメディアに取り上げられ、多岐に渡り「大阪大学」や「仕掛け」が認知される結果となった。
- 「触れ合いの社会認知神経科学ロボティクス」に関して、新聞報道14件・海外News配信53件がなされた。
- IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award受賞。



類似プログラム(未来研究イニシアティブ、未来知創造プログラム)のこれまでの展開等の例

- 日本学術振興会拠点形成事業「数理腫瘍学 国際研究ネットワークの構築」が採択され、米、仏、英の3カ国の拠点機関と協力して、国際研究を展開した。
- 大阪大学数理・データ科学教育研究センターが発足した。東京大学医科学研究所、新領域創成科学研究科と協定を締結した。
- 科学研究費補助金 新学術領域研究等、大型研究プロジェクトの採択。